

春の旅立ちを祝して



商学部長
木立 真直
Mawao KIDACHI

この度、無事、卒業式を迎え、本学を旅立たれることを心からお慶び申し上げます。皆さんは、4月からの新天地でのピカピカの自分を思い描き、期待に胸を膨らませていることでしょうか。まさに卒業式は始まりを意味するコメンズメント (Commencement) にほかなりません。他方、卒業までの大学生活に思いを馳せるとき、万感胸に迫るものがあるに違いありません。振り返れば、そこに至宝のような青春時代の一コマ一コマが散りばめられているはずです。

大学教員の目に映る受験から卒業までの学生生活の諸相は、およそ次のようなものです(篠原三郎『歌集キャンパスの四季』みづち書房、より)。

「可能性をばしかとひめこつこつと時間を刻む受験生の背」「教室に新一年生みなそろそろ授業開始第一時限」「鷹揚にトランペットの鳴り響くキャンパスに満つ学生の春」「賑々し見たることなき学生も教室にいてテストはじまる」「窓越しに学生の影三、四、七、図書館の灯のあたたかに見ゆ」「疲れたる表情なれどどの顔も厳しかりけり卒論提出日」「キャンパスはこころ安らく国を超え通うなにかのここにあるらし」

大学生の本分は、やはり学問を志し修めることにあります。卒業論文の取り纏めなどの学修の労苦は、必ずや将来、何らかのかたちで役に立つ出番がやってくるものだからなのです。とはいえ、中にはあまり勉強に熱心ではなかったと告白する人もいるかも知れません。ただ、その場合であっても、ぜひ、「学び方」を学んだ、少なくとも「学び続けることの大切さ」を学んだ、ということであって欲しいと念じます。加えて、大学時代に様々な人と出会い、後に生涯の友と呼べる人を見つけられたならば、これ以上の幸せはないように思います。

中央大学で過ごした学生生活が、皆さん一人ひとりにとって、それ自体としてかけがえのない青春時代の一コマであり、さらに、これから皆さんを待ち受けている山あり谷ありの人生を逞しく切り拓いていくための貴重な糧となるよう、強く念じます。「最上ものは過去にあるのではなく、未来にある。(The best is yet to be.)」(Browning, Blackmore より)。まさに「お楽しみはこれからだ!」なのです。理想と希望を胸に前向きに着実に自らの人生を歩まれるよう、心からエールを送ります。

君の後ろに道は出来る



工学部長
石井 靖
Yasushi ISHII

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。長い学生生活を終えて、社会に飛び出していこうとしている皆さんに、心からの祝福を送ります。

工学部では今年、人間総合理工学科の第一期生が中央大学を巣立っていきます。「僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る」は高村光太郎の詩「道程」の冒頭の一節ですが、第一期生の皆さんは日々の勉学に、あるいは就職活動にそのような思いを抱くことがあったかもしれません。また、新しい学科を第一期生である自分が創るといった使命感をもって4年間を過ごした人もいたかもしれません。そうした思いを胸に、社会で人間総合理工学科の新たな歴史(実績)を築いていかれることを願っています。

一方、50年余の歴史をもつ学科の諸君は先輩たちが築いてきた実績やその助力に有形無形の恩恵を受けたこともあったかもしれません。それは中大理工の、そして中央大学の良き伝統だと思います。とはいえ、それだけに甘んじてはいけません。長い歴史を持つ学科の卒業生も、新しい学科の卒業生も、皆さんはこれから皆さん自身の道を自分の後ろに築いていかなければなりません。その時に助けとなるのは、工学部で学んだ理工マインドと知的体力です。自信を持って、立ち向かっていって下さい。

門出にあたって、卒業生の皆さんが、自らの力でそれぞれの道を築かれんことを心から願って、お祝いの言葉と致します。実り多き人生を送って下さい。卒業、おめでとう。